

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600023		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム笑生苑より愛		
所在地	防府市仁井令765-6		
自己評価作成日	令和2年9月28日	評価結果市町受理日	令和3年1月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、家庭的な雰囲気での生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士、利用者職員との距離が近く「みんながいる」という安心感を感じられる。 <p>2、地域の方との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡網の中に、自治会長や近隣の方の連絡先が入っている。 ・「何かあればいつでも言っ」と声を掛けて頂いている。 <p>3、地域行事への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り大会や地区の避難訓練の参加 ・市広報、回覧の配布当番 ・溝掃除 ・不燃ごみの分別当番

事業所理念の「耳、目、心に寄り添う生活」を大切にされ、利用者が入居される前に自宅訪問され、本人や家族から馴染んだ習慣や現在の状態、願いや支援が必要なことなどを把握され、日々の関りの中での利用者の言葉や表情などを「経過記録」に記録されて思いや意向の把握に努められ、利用者一人ひとりのペースに応じての生活が送れるように支援しておられます。新型コロナウイルスのために外出が難しい中、職員の勤務時間を調整されて、毎日、散歩が出来るように工夫しておられる他、事業所内でスポーツ大会や夏祭りを開催されたり、おやつづくりの回数を増やしておられるなど、気分転換や活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援をされ、利用者一人ひとりの思いを大切にされて個別のケアに努めておられます。自治会に加入され、地域行事(避難訓練、市広報や回覧板の配布当番、不燃ごみの分別当番など)に参加されている他、事業所の避難訓練に近隣の人の協力を得られたり、菜園づくりのボランティアの来訪があるなど、地域の人と日常的な交流をしておられ、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように。事業所と地域とのつきあいを大切にされた支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりの個性を活かして「私にも出来る」を感じる支援や「みんながいる」という安心感を提供している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。日常業務の中で利用者一人ひとりの思いを大切に、ミーティングで話し合っ確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が畑づくりをしてくださり、日常的に交流がある。 また、自治会主催の避難訓練への参加、市広報紙の配布、溝掃除への参加している。	自治会に加入し、市広報の配布や自治会活動(溝掃除、不燃物の分別当番、回覧板を持って行くなど)をしている他、地区の避難訓練に参加し、地域の人と情報交換や交流をしている。利用者は、事業所の菜園づくり(薩摩芋、玉ネギ、南瓜、人参、茄子など)に協力している近所の人やボランティア(オカリナ演奏、外出支援)で来訪している人、訪問散発の人などと、交流している。散歩時には近所の人と挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて取り組みを報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員が自己評価に取り組んだ。評価を受けることによって業務の改善を図り、知識や技術の向上を目指していると理解している。	管理者は、職員に評価の意義を説明し、全職員に自己評価をするための用紙を配布して記入してもらい、まとめている。職員は自己評価に取り組むことで、利用者一人ひとりの個性を活かしたケアになっているかを振り返るとともに、業務改善を図り、知識や技術の向上を目指す機会と捉えている。評価を受けて課題の検討等をしているが、目標達成計画を市に提出していない。パート職員の普通救命講習の参加や訪問看護師による緊急時の初期対応(転倒、誤嚥)の研修を実施し、災害時の避難訓練への近隣住民の参加、自治会長や地域の人の緊急連絡網への加入など、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者の日常の様子や現状を報告している。評価や感想をいただき、意見交換を行っている。	会議の開催は年6回(コロナウィルス感染拡大防止のため1回は書面での報告)開催し、利用者の状況や活動状況、行事予定、地域行事等の報告をして後、話し合いをしている。参加者からはコミュニティカフェや子供会活動でつながりを深めることや災害時の夜間避難、認知症の考え方や関わりを地域で深めるために研修を実施するなど、意見交換をしてサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて取り組みを報告している。情報交換の場としても活用している。	市担当者とは、電話で申請内容や手続き、運営上の疑義について相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように努めている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で情報交換や利用者の状況について相談をしているなど、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、施設内研修を行い職員へ周知、徹底を行っている。 玄関の施錠については出来る限り、しないように取り組んでいる。	職員は「身体拘束廃止に関する指針」に基づいて、3ヶ月に1回開催の内部研修で学び、身体拘束の弊害等について正しく理解している。玄関は日中施錠しないで、外出したい利用者とは職員と一緒に出かけているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいた時には管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。管理者や計画作成担当者、介護職員をメンバーとして身体拘束防止適正化委員会を、3ヶ月に1回、研修に合わせて実施している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の芽チェック表」を用いて、自己評価を行い、日々の振り返りをし、職員間で防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解は全職員が理解できているとは言えない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定までに、施設見学をしていただいている。契約・重要事項については書面を説明し、ご理解していただいた上で契約をしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人からの要望・苦情については随時受け付けている。申し出があった場合は対応を検討している。	相談や苦情の受付体制、第三者委員、公的機関窓口、処理手続きについて、契約時に家族に説明している。家族からは面会時、電話、運営推進会議時、年1回の家族交流会等で意見や要望を聞いている。苦情は「苦情相談記録」に記録し、個別の相談や要望はケース記録や連絡ノートに記録して職員間で共有している。家族からは感謝の言葉が多く、個別ケアに関する要望にはその都度対応している。家族交流会では重症化について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見交換を行い、ケアの向上や業務改善に務めている。	管理者は、申し送り時や月1回のミーティング時に職員からの意見や提案を聞いている他、係り業務(レクリエーション、壁面、整理整頓)の中でも聞いている。新型コロナウイルスのために外出が難しい中で、職員の勤務時間を調整(早出、遅出、日勤、夜勤の開始時間を1時間づつずらす)して、雨天や夏以外は毎日の散歩に出かけて気分転換の支援をしている他、トイレで便座カバーを使用していたが、汚染の回数が増えたため、清潔面から暖房便座に交換しているなど、職員の提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全体で個々の持つ個性を理解し、お互いを補えるような関係性を築き、働きやすい環境になるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年齢や経験がまちまちであるが、「利用者のために」を優先したケアを日々行うように指導している。 勤務体制の都合もあり、参加する研修が限られる。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命書を提出し、資料を回覧すると共に、内部研修で伝達し、全職員で共有している。法人研修は、計画を作成して月1回、外部講師を招いて高齢者虐待防止、認知症ケアを考える、身体拘束廃止等を実施している。職員は業務に関する研修に参加している。内部研修は、管理者や訪問看護師の指導の下、緊急時(窒息、脱水、ハイムリック法、食中毒など)の対応を実施している。新人研修は、日々の業務の中で管理者や先輩職員から、介護の技術や知識を伝授しながら学んでいる。法人は資格取得のための研修参加について、勤務変更等の配慮をしている。防府市南圏域グループホーム協議会の研修(事業所における身体拘束適正化検討について、運営推進会議について救急救命法、AEDの使用法など)の開催があり、職員は4ヶ月に1回の研修に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ圏域のグループホームと協議会を立ち上げ、4ヶ月に1回、研修会を行い、情報交換の場としても活用した。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は管理者と計画作成担当職員が事前に面談を行い、不安や疑問についてや入居前の様子などをお聞きしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まるまでに施設見学を行い、苑での生活をお伝えしている。また、不安や困っていることをお聞きしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至るまでの経緯を把握し、本人・家族のニーズを聞き取り、各サービス提供者と検討している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、たたんだりする方、お盆を拭く方がおられる。利用者から「やるよ」と職員へ声を掛けられる。役割を持って頂けるように支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人へ受診介助を依頼したり、美容院へお連れして頂いたりしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少なくとも月1回以上の面会をお願いしている。また、面会が難しい家族や知人からは電話がかかるので取り次いでいる。	家族の面会や親戚の人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの理髪店の利用や家族の協力をえての馴染みの美容院の利用や墓参り、外出、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで集う時間を活用し、レクリエーションを通して交流できるように努めている。入居者同士の相性を把握し、問題が起きないように配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の気持ちに寄り添い安心・安全に生活を送れるように努めている。入居が発した言葉は個人記録に記入し、職員間で情報を共有し、ご希望に添うように努めている。	入居前に自宅訪問をして、本人や家族から暮らしの様子や馴染んだ習慣、現在の状態、思いや支援して欲しいことなどを把握し、アセスメントシートや暮らし方ノートに記録している。日々の関わりの中での利用者の言葉や表情、状況を「経過記録」に記録して、思いや意向の把握に努めている、プラン変更時には「ご本人の暮らし(生活リズム表)」にまとめている。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から聞き取りを行い、一人ひとりの生活歴を把握をするよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、入居者の現状を把握している。また、日々の介護記録を通して、心身の状態(睡眠、食欲、排泄など)を職員間で共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1年ごとにケアプランの見直しを行い、3か月ごとにモニタリングを実施している。 家族からは面会時やカンファレンスの前に要望を聞くようにしている。	計画作成担当者を中心に月1回のカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医や訪問看護師の意見等を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎の見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の様子を記録している。職員間で連絡ノートを記入し、情報共有している。それらをケアプランの見直しに活用している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「散歩に行きたい」「墓参りに行きたい」など入居者の個別のニーズをその都度検討し、対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会を開催した際、近隣の方にボランティアをお願いし、楽器の演奏をして頂いたり、一緒に歌ったりした。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時に近況を報告し指示を仰いでいる。往診結果は連絡ノートに記載し、職員間での周知を図っている。必要な場合には家族へ連絡している。	本人や家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診がある。他科受診は家族の協力を得ての受診となっている。歯科受診は必要に応じて往診がある。往診、受診結果は連絡ノートに記録し、職員間で共有している。家族には電話で報告している。週1回の訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理や相談などの対応をしている。夜間、休日、緊急時には協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問する訪問看護に日常の様子や往診結果の報告などを伝えている。 年1回「緊急時対応」の研修をお願いした。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は見舞いを兼ねた訪問を重ね、退院時に問題がないよう情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	構造上の問題があり、当苑では看取りが出来ない旨を入居時に説明している。家人への現状報告は随時行い、当苑での介護が困難になってきた場合は他施設への転居を家人と一緒に考えている。	「重度化した場合における対応の指針」に基づいて、事業所でできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医、看護師、職員間で話し合い、医療機や他施設への移設も含めて方針を決めて支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	全ての職員が応急手当や初期対応の訓練が出来ていない。普通救命講習の研修に参加した職員もいる。	事例が発生した場合は、事故報告書、ヒヤリハット報告書に事故の概要(日時、場所、レベル、状況図、怪我の部位など)や事故対応(発生、発見時の状況など)、事故後の対応(利用者の状況等)の他、再発防止に向けての対応を記録し、回覧して共有している。月1回のミーティング時に再度話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。グループホーム連絡協議会主催の救急救命法(普通救命講習)やAEDの使用訓練の受講をしている。訪問看護師が講師となり、緊急時の対応(誤嚥、窒息、意識不明、骨折)や感染症予防について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実戦力を身につけるまでには至っていない。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した避難訓練と年1回風水害を想定した避難訓練を行っている。火災避難訓練では近隣の住民に避難誘導をお願いし、一緒に訓練を行った。	年2回、消防設備会社の協力を得て、昼夜の火災を想定した通報訓練や避難訓練、消火器の使い方、避難経路の確認等の訓練を、利用者や運営推進会議出席者、近隣の住民の参加を得て実施している。近隣住民には避難誘導や避難者の見守りの協力を得ている。年1回は事業所独自に風水害想定での避難訓練を実施している。災害時の緊急連絡網に自治会長や近隣の人が加入している。地域の総合防災訓練に参加し、利用者と職員と一緒に自治会指定の避難場所に徒歩で避難した後、救命講習や消火訓練などに参加して、地域との協力体制を築いている。非常食品は3日分の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を努めている。 慣れ合いによる言葉や対応の乱れがないか、常に確認を行っている。	職員は、一人ひとりの人格を尊重し、尊敬の念を持って接し、ほこりやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。管理者は、馴れ合いによる言葉かけや不適切な対応がないかを常に確認し、不適切な対応のある場合は指導し、職員間でも、話し合っている。個人情報取り扱いに留意し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を大切にし、その中で本人の思いや希望を把握するようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑のスケジュールに固執せず、一人ひとりのペースに合わせて要望に応えるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	メイクをされていた方は入居後も継続できるように支援している。 美容院への希望があれば家族に協力を得て行っている。定期的な訪問散髪を利用し、身だしなみの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回昼食作りを行っている。畑で収穫した野菜を使った献立を考えたり、そうめん流しを行ったりした。 野菜を切ったり、片づけでお盆を拭いてもらったり入居者にできることは一緒に行っている。	食事は、三食とも法人からの配食を利用している。ご飯と朝食の味噌汁は事業所でつくっている。利用者がこれまで自宅で使っていた茶碗を使い、食べやすいように食品交換(嫌いなものいや硬いものなど)や形状の工夫をして提供している。月2回の日曜日クッキング(昼食づくり)は、利用者の好みを聞いて献立を作成して、畑で収穫した野菜を使って、寿司やカレーライス、おでん、栗ご飯、豚汁、さつま芋ご飯、そばろ井、炊き込みご飯などを利用者と職員と一緒に食事づくりをしている。利用者は野菜の下ごしらえ(皮むきなど)など、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲んで食材やキャラクターなどの話をしながら同じ物を食べている。おやつづくり(パフェ、プリンアラモード、たい焼きなど)や外食支援で回転寿司(2カ所)に行っている。季節の弁当購入、季節の行事食(おせち料理、節句の寿司、饅頭、そうめん流し、おはぎ、年越しそば、雑煮など)を楽しんでいる。梅干し、切り干し大根などの保存食づくりやお茶会、喫茶を楽しむ他、家族の協力を得ての外食等、食事が楽しみなものになるように工夫して、支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成している。 一日の水分量を記録し、不足していれば本人の嗜好品を用いて補うように努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは声掛けを行い、必要に応じて一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導や声掛けを行っている。本人が排泄の素振りを見せた際に誘導することもある。	排泄記録表を参考にして、排泄パターンを把握し、利用者の不安や羞恥心に押された言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤に頼ることのないように、水分補給に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2日に1回入浴している。一人ひとりのタイミングに合わせて誘導している。状況に応じて清拭や陰洗を行っている。	入浴は2日に1回、13時から17時までの間可能で、順番や湯加減、季節の柚子湯や入浴剤など、利用者の希望を聞いて支援している。職員と会話を楽しみながら、ゆっくりと入浴できるように支援をしている。入浴したくない人には無理強いをしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をするなどの対応をしている。利用者の状態に合わせての清拭、足浴、シャワー浴、部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や生活習慣に応じて静養を促している。室内に温度計を設置し、快適な環境であるかを確認する。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧のファイルを作成し、職員は常に確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や自室の掃除をして頂き、役割を担って日々を過ごすようにしている。	洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水換え、月2回のクッキング、おやつづくり、食事の下ごしらえ、草抜き、野菜(玉ネギ、さつまい)の収穫、テレビやDVDの視聴、本や雑誌、新聞を読む、新聞の書き写し、日記をつける、折り紙、ぬり絵、習字、歌を歌う、カルタ、トランプ、坊主めくり、壁画づくり、カレンダーづくり、ラジオ体操、テレビ体操、口腔体操、脳トレ(漢字、計算)、早口言葉、季節行事(初詣、豆まき、バレンタインデー、夏祭り、七夕、敬老会、クリスマス会、餅つきなど)、地域の行事の見学など、活躍できる場面づくり、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方は散歩へ出かけたり、月1回は外出する機会を設けている。 近所の公園で弁当を食べたり、近隣宅へ果物の収穫に出かけたこともある。	事業所周辺の散歩(新型コロナウイルス禍で外出が減ったため、雨天や暑い日以外は毎日実施)、買い物、理美容院の利用、四季の花見(梅、桜、つつじ、紫陽花、紅葉)、ドライブ(潮彩市場、佐波川、イオンタウン、防府天満宮など)、初詣、1日旅行(錦帯橋)等に出かけている他、外出ボランティアの協力を得て、防府天満宮に梅を見に出かけている。家族の協力を得ての外出、外食、一時帰宅、外泊、墓参り等、本人の希望を把握し、家族や地域の人々の協力を得て、出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを苑で管理している。できる方は少額を自己管理していただいております、外出時に使用している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙のやり取りをしている。家人から電話があるので、取り次いでいる。携帯電話を所持している方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に壁面やつるし飾りを共同作成し、季節を感じられる工夫をしている。	事業所は閑静な住宅街にあり、二階建ての民家を改修した建物で、外観も間取りも住んでいた我が家の雰囲気を感じることができる。建物内は利用者の安全に配慮し、2階に上がる階段には手すりや落下防止柵があり、エレベーターが設置してある。広い縁側に出ると庭の樹木や道行く人を眺めることができる。リビングの中央にはテーブルや椅子、ソファ、テレビが配置している。食事の準備の音や匂いのする中で利用者は談笑したり、ゆったりと過ごしたり、家庭的な雰囲気を感じることができる。共用空間には季節の花を飾り、玄関には利用者の共同作品である季節の紙細工(ぶどう、りんご)やつるし飾り、行事写真を飾り、日めくりカレンダーが掲示してある。温度や湿度、換気、清潔などに配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁側にソファがあり、好きな時に集まったり休んだりしている。 就寝前までリビングでテレビを見たりパズルをしたり各々過ごしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は使い慣れた家具を持参して頂くようにしている。 居室にはご自身の写真や作品などを飾っている。	テレビ、ラジオ、3段ボックス、パイプスタンド、衣装ケース、掛け時計、寝具、パズル、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、自身の作品であるぬり絵や折り紙作品、造花、家族写真、遺影を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段・廊下の必要な場所には手すりを設置し、自力で歩けるよう配慮している。 夜間明るいと消される方がおられるので照明に配慮している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム笑生苑より愛

作成日: 令和 3 年 1 月 21 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	・定期的な訓練の実施 ・緊急時のマニュアル、連携体制の確認	年間計画を訪問看護と作成し、訪問時に勉強会を行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。